

腹腔鏡内視鏡

合同手術研究会

Laparoscopic Endoscopic Cooperative Surgery

第18回 2018年10月31日

■ 12-JP	当院における LECS の治療成績の変遷 The changes in surgical outcomes of LECS
---------	--

代表演者：李基成（がん研有明病院消化器外科）

Speaker: Motonari Lee, M.D., Department of Gastroenterological Surgery, Cancer Institute Hospital

共同演者：[がん研有明病院消化器外科] 布部創也、井田智、熊谷厚志、大橋学、比企直樹、佐野武

【背景】2006年に胃粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡内視鏡合同手術 (Laparoscopy endoscopy cooperative surgery; LECS) が開発され、2014年には内視鏡操作を伴う胃局所切除としてLECSが保険収載された。

【目的】当院で施行されたLECS症例について、前半期と後半期においてその短期成績を比較する。また、噴門部LECSについて同様な比較検討を行う。

【方法】当院で2006年6月から2018年5月までに施行したLECS 204症例を前半期(2006年6月-2012年5月; 68例)、後半期(2012年6月-2018年5月; 136例)に分け、臨床病理学的因子、手術所見、術後短期成績を後ろ向きに検討した。また、噴門部LECSを施行した12例についても前半期4例、後半期8例に分けて同様な検討を行った。

【結果】全204例において臨床病理学的因子には差を認めなかった。前・後半期で手術時間は183分、184分(中央値、 $p=0.19$)、在院日数は7日、7日(中央値、 $p=0.03$)、術後合併症(Clavien-Dindo分類2以上)は4例(5.9%)、4例(2.9%)($p=0.30$)であった。噴門部LECSでは前・後半期で腫瘍径が26mm、41mm(中央値、 $p=0.23$)であり、手術時間は190分、358分(中央値、 $p=0.006$)、在院日数は9.5日、9.5日(中央値、 $p=0.60$)、術後合併症(Clavien-Dindo分類2以上)は0例(0%)、1例(12.5%)($p=0.46$)であった。

【結語】当院におけるLECSの短期成績は良好であり、特に後半期では合併症率は低かった。また、噴門部LECSは後半期において手術時間は延長したものの、より大きな病変に対して行われており、合併症率も低く安全に施行されていると考えられた。